



松山市「環境教育プログラム策定事業」の経緯

松山市では、環境先進都市であるドイツ・フライブルク市との姉妹都市関係を活かして、平成二十四年に、環境教育の推進及び環境学習施設の運営に關して情報交換を図るために、フライブルク市の環境学習施設「エコステーション」と本市の環境学習施設「まつやまRe・再来館」及び「都市環境学習センター」の三施設間によるエコフレンドシップ協定を締結した。

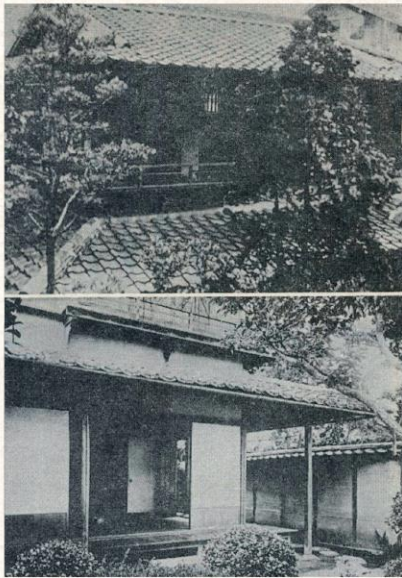
そこで、平成二十七年年度から、フライブルク市とWeb会議を実施し、両市の環境教育の実践者などが様々な情報交換や意見交換を行った。この会議を通じて知り得た環境教育のノウハウを基に、小学生向けの松山市オリジナルの環境教育プログラムの策定に取り組んだ。

今回のプログラム『子規「散策集」をたどるまち歩きと松山の魅力再発見!』は、この事業の下で、平成二十八年年度、松山市立新玉小学校と愛媛大学羽鳥剛史研究室が同小学校5年生と一緒に行った授業を基にして策定された。



正岡子規の「散策集」について

正岡子規は、明治二十八年八月、病氣療養の為、松山に帰省した際、東京大学予備門時代からの親友で、当時松山中学校の英語教師をしていた夏目漱石の下宿で五十二日間の共同生活を行った。二人の下宿は「愚陀仏庵」と命名され、多くの俳人が集まり、たびたび句会が開かれた。また、子規は、漱石や俳句仲間と一緒に松山近郊を散策し、多くの俳句を作った。「散策集」は、この時の俳句や吟行の様子をまとめたものである。



▲当時の愚陀仏庵
 (「松山観光ボランティアガイドの会」のホームページ 四国・松山まち歩き観光より)



▲「散策集」の散策ルート